

# サーキット・ライダー 2007年10月号

## 信仰と行い

わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたのだれかが、彼らに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい」と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役にたつでしょう。信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。

ヤコブの手紙 2 : 14 - 17.

「信仰による救い」「救いは信仰によってのみ与えられる」（ローマ 3 : 28、ガラテヤ 2 : 16 他）を主張した宗教改革者マルティン・ルーターは「行い」を強調したヤコブ書を「藁の書」と言って侮蔑し、さりとして省くわけにも行かずパウロの書簡の後ろの方に持ってきた、という逸話がありますが、それ以来、「行い」が誤解を受けてきました。ルーターは16世紀当時のカトリックの免罪符、有名教会巡礼、聖者の遺品集めなどの行為による救いの安売りを批判し、「救いはキリストを信じる信仰のみ」を主張しました。しかしルーターの発言の煽りを受けてマルタとマリアの姉妹（ルカ 10 : 38 - 42 参照）の姉マルタが中世までは聖者としてかなり高い位置に置かれ崇拝されていたのが、「行い（のみ）の女性」としてプロテスタント教会ではどこか卑しめられるようになってきました。

確かに魂の救いは信仰のみ、と私も確信していますが、問題はそこから先、つまり信仰者の姿勢であり、それをヤコブ書は痛烈に批判し訴えているのです。ヤコブ書は信仰に入る前の求道者、未信者への手紙ではなく、既に信仰に入っている者たちへの手紙です。その上で読んでいくと、色々と学ぶことがあります。まず「クリスチャンの行い」には大きく二通りあるということ。一つは教会内での行い。もう一つは教会外でキリストの教えを実践していく行い。教会内での行いとは本来「祈りと讃美をもって礼拝を守る」こと。まず礼拝を守り、その上で諸々のプログラムに奉仕する。礼拝に出ないでなんのクリスチャンでしょう。時にこの内なる行い（礼拝を守る）が、教会内での他の奉仕とすりかえられ、諸々のお役について奉仕をし、行いを懸命にするうちに、いつの間にかそれが信仰生活だ、と勘違いしてしまう方がいます。また更に教会で色々奉仕をしているけど外ではほとんど何もしないという傾向を生み出してもいます。これでは本末転倒です。内では礼拝を守り、外では良い業＝御言葉の実践をし社会に貢献することが真の行い、クリスチャンの証だと私は定義したいと思います。

クリスチャンが地域の奉仕活動に積極的に参加することはすごく大事なことです。老人ホームに行ったり、病院に行ってボランティアをしたり、子供たちの学校や町で善行をする。それなくして何の信仰生活、証（あかし）だろうと思います。毎年、秋に **Crop Walk** というプログラムがあり、アメリカ人の会衆と日本語ミニストリーのメンバー数人が参加しています。これは **Community Responding to Overcome Poverty** 『地域が貧困撲滅のために立ち上がる（応答する）』という頭文字を取ると **Crop**=収穫という単語になることから、「収穫を集め分かち」ことを主旨に **Church World Service** という超教派の団体が主催で行われています。参加者はスポンサーを募り6マイル（10キロ）歩き、歩き通せたらスポンサーから寄付を頂く。その寄付を **Church World Service** を通して貧しい人たちに捧げます。これまでニューオーリンズなどの台風被災地域や干ばつ被害地域など、苦しんでいる多くの人々への援助がなされて来ました。

例年、秋の美しい日差しの中（雨の時は延期なので）、紅葉に彩る街並みを見ながら、教派を超えてカトリック、ルーテル、組合派、改革派、聖公会などの諸教会、ユダヤ教徒の方達と私達メソジストと一緒に10キロ歩く達成感は格別です。また友人、知人にスポンサーをお願いし、寄付を募る行為に、自分だけでなく多くの方の支援があり、この企画が成り立っていることを思い知る時、「地域社会が助け合う必要性」を改めて感じます。これまで最年少では6歳の子供が、最年長では80歳過ぎのご婦人が完歩しました。その方たちの嬉しそうな顔を見た時は私も思わず「**Congratulations!** おめでとう」と叫ばずにはおれませんでした。私たち一人一人は社会では影響力もさほど無い小さい者です。しかし皆が集まって聖書の教え、御言葉を実践していけば何かが成し遂げられると思います。

私たちが美味しいものを食べ、有り余る物に囲まれて生活している時に、貧しく日々の食べ物さえない人々がいる現実を私たちはもっと意識し地域の一員として、クリスチャンとしてもっと、もっと奉仕すべきではないでしょうか。ヤコブの手紙はそのことを私たちに教えてくれています。 吉松 純

## 礼拝は日曜日午後4時です。Jr.教会(日曜学校)も4時からです。

- 10月 7日：礼拝、聖餐式、Jr.教会：りんごを使ってクッキング。  
14日：礼拝、ゲスト説教者：浅田容子牧師(ユニオン日本語教会牧師)。Jr.教会、聖書物語。  
21日：アメリカ人と合同礼拝、午前10時。午後1時よりCrop Walk。日本語礼拝はありません。  
28日：礼拝、Jr.教会、お話し会。  
11月 4日：礼拝、聖餐式、Jr.教会、バザーの準備、お手伝い。

### 行事予定と報告

- \* 洗礼準備聖書勉強会：毎週日曜日礼拝前の午後3時より。洗礼を受ける決心をしたかた、まだまだ迷っている方、何も分からない方、皆歓迎します。
- \* 毎週月曜日、午後7時：ハンドベル聖歌隊(英語)。
- \* 毎週火曜日、午前10時：聖書研究会(英語)。パウロの書簡を学びます。
- \* 毎週木曜日、午前10時：アメリカ人教会員指導によるクッキング・クラス(英語)。
- \* 毎週木曜日、午後7時：聖歌隊(英語)。英語が苦手でも讃美できます。どなたも歓迎。
- \* 毎週木曜日、午後8時：夕礼拝または聖書の学び(11月から)
- \* ユース(中高生会、英語)は第二、第四日曜日の午前9時。

### お知らせ：

- \* 10月4日より、アメリカの伝統料理を習うクッキング教室が始まります。毎週木曜日午前10時から12時まで、登録料30ドル。毎週、材料費、光熱費などの実費10ドル。申し込みは英語オフィス(201)391-5499までどうぞ。
- \* 吉松牧師は10月8日から23日まで休暇を取ります。14日の聖日礼拝はウエストチェスター・ユニオン日本語教会の浅田容子牧師が説教を取り次いでくださいます。
- \* 10月21日午後1時より、毎年恒例のCrop Walkがあります。スポンサーを募り6マイル(10キロ)を歩き、歩き通せたら献金をいただき、困っている人たちに送ります。皆様、是非参加協力下さい。尚、当日は英語礼拝と合同礼拝を持ち、午後の日本語礼拝はお休みとなります。
- \* 11月9日(金)10日(土)にアメリカ人会衆主催によるバザーがあります。バザーのお手伝いをしてくださるボランティア、買い物客それぞれ大歓迎です。ボランティアできる方は教会オフィスまでご連絡下さい。

### 感謝とお祈りのお願い：

- \* 川俣千枝子姉の支援献金は9月末日を持って閉じさせていただきました。総額6740ドル集まりました。皆様のご厚意に感謝いたします。川俣姉は10月中旬より5ヶ月間に渡り乳癌の根治の為投薬治療を受けます。どうぞ川俣姉の治癒の為、再出発の為お祈り下さい。

### 御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。

- \* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- \* 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- \* ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。
- \* パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス(201)391-5499 日本語オフィス兼ファックス(201)505-0347

吉松牧師(201)391-2208 [pastor@umc-japan.org](mailto:pastor@umc-japan.org) 代表役員：松尾孝恵姉 [Takae17A@aol.com](mailto:Takae17A@aol.com)

教会学校担当：吉松 泉姉 [izumi.yoshimatsu@gmail.com](mailto:izumi.yoshimatsu@gmail.com) ホームページ：<http://umc-japan.org>